

ト上83%, テント下0%であり, テント下に false positive が多かった. Clipping 術が5例, Coating 術が2例に行われ経過良好である. 脳ドックでの脳動脈瘤診断の問題点を検討する.

A-63) 覚醒開頭術の術中管理

佐藤 清貴 (広南病院麻酔科)
 加藤 正人 (東北大学麻酔科)
 Alan A. Artru (ワシントン大学麻酔科)
 隈部 俊宏・吉本 高志 (東北大学脳神経外科)

神経腫の治療に際しては, 脳の機能局在を明らかにした上で広範な切除を行うことが重要だが, 正確な脳機能 mapping のためには術中 awake とする必要がある. 我々は2例の glioma 症例に対し覚醒開頭術を行ったので, その術中管理について報告する.

第1例は34歳の男性, 左前頭弁蓋部 glioma, 第2例は26歳, 男性, 右 motor strip の glioma 症例である. 前投薬を行わず手術室に入り半側臥位とし propofol による麻酔を開始した. propofol 投与速度は 8~10 mg/kg/h で自発呼吸下で管理し, 最高 PaCO₂ は 52 mmHg であったが, brain swelling はなく, mannitol も使用しなかった. propofol 中止後15分程度で mapping 可能な覚醒が得られた. 術中の呼吸・循環は安定しており, 速やかな覚醒が得られることから propofol 単独での麻酔が覚醒開頭術に安全かつ有用であると考えられた.

B-1) 脳血管造影時にみられる頸部内頸動脈起始部の造影剤停滞所見の意義: Angiogram と Echogram の計測より

鈴木 直也・伊藤 聡 (弘前大学脳神経外科)
 鈴木 幹男 (仙台東脳神経外科病院)

〈目的〉脳血管造影において, 頸部内頸動脈の狭窄が無いか軽度であるにもかかわらず, 造影剤が頸動脈 (IC) 起始部に停滞する (wash-out が遅い) 例が時にみられる. この現象と末梢側 IC の動脈硬化性変化の程度との関連を検討する. 〈方法〉ここでは頸部内頸動脈に狭窄がなく, 中大脳動脈閉塞を認めない例を対象とする. 総頸動脈から造影剤を注入し, 内頸動脈起始部に厚さ 1 mm 以上の拍動性停滞が, 内頸静脈相まで持続するものを陽性例とし陰性例と以下の点について比較を行った.

(1) 動脈硬化性変化を評価すべく IC の輪郭沿い距離: 直線距離比, 面積 mm²: (区間の輪郭長さ mm)² 比, C1, M1, A1 断面積比等を計測. (2) カラードップラー装置で総頸および内頸動脈の流速を計測. 〈結果〉停滞側で末梢 IC 領域の動脈硬化性変化が強く, 頸動脈流速は低下傾向あり. 〈結論〉内頸動脈の造影剤停滞現象は, 末梢側 IC 領域の動脈硬化性変化を示唆する.

B-2) Transcranial Doppler (TCD) による血栓内膜剝離術モニタリング

中村 俊孝・宝金 清博
 石川 達哉・高橋 明弘 (北海道大学脳神経外科)
 阿部 弘

【目的】CEA 時には様々なモニタリングが施行されているが, cerebral perfusion と embolus の両者を評価出来るのは TCD のみである. しかし, 従来の機種では安定した測定が困難であり必ずしも普及しているとは言いがたかった. 今回我々は小型のプロローベの使用により測定が容易であり, また, embolus が検出された症例を経験したので報告する. 【対象・方法】CEA 施行例全7例であり, DWL DOP-7 を用い小型プローブを専用の head band で固定し両側 M1 をモニターした. また, back ground signal よりも 14 dB 以上の輝度をもつ signal から manual で artifact を除き embolus を count した. 【結果】ICA 遮断時に MCAV が50%以上低下したものは4例であり, これらの ICA 遮断時の Pulsatility Index (P.I.) は0.26以下, S/D ratio は1.31以下であった. MCAV の低下が軽度なものの P.I. は0.69以上, S/D は1.68以上であり, この内, MCAV が全く変化しない2症例では術前の AG で既に co-lateral flow を認めていた. また, 低輝度の embolic signal は時期を問わず比較的多く検出されたが, 臨床上問題となる高輝度の signal は動脈剝離時に多く, 遮断解放時には1例で認めたのみであった. また, シャント中には全く検出されなかった. 全症例で脳虚血合併症は認めなかった. 【結語】TCD は CEA 時のモニタリングとして非常に有用であった.